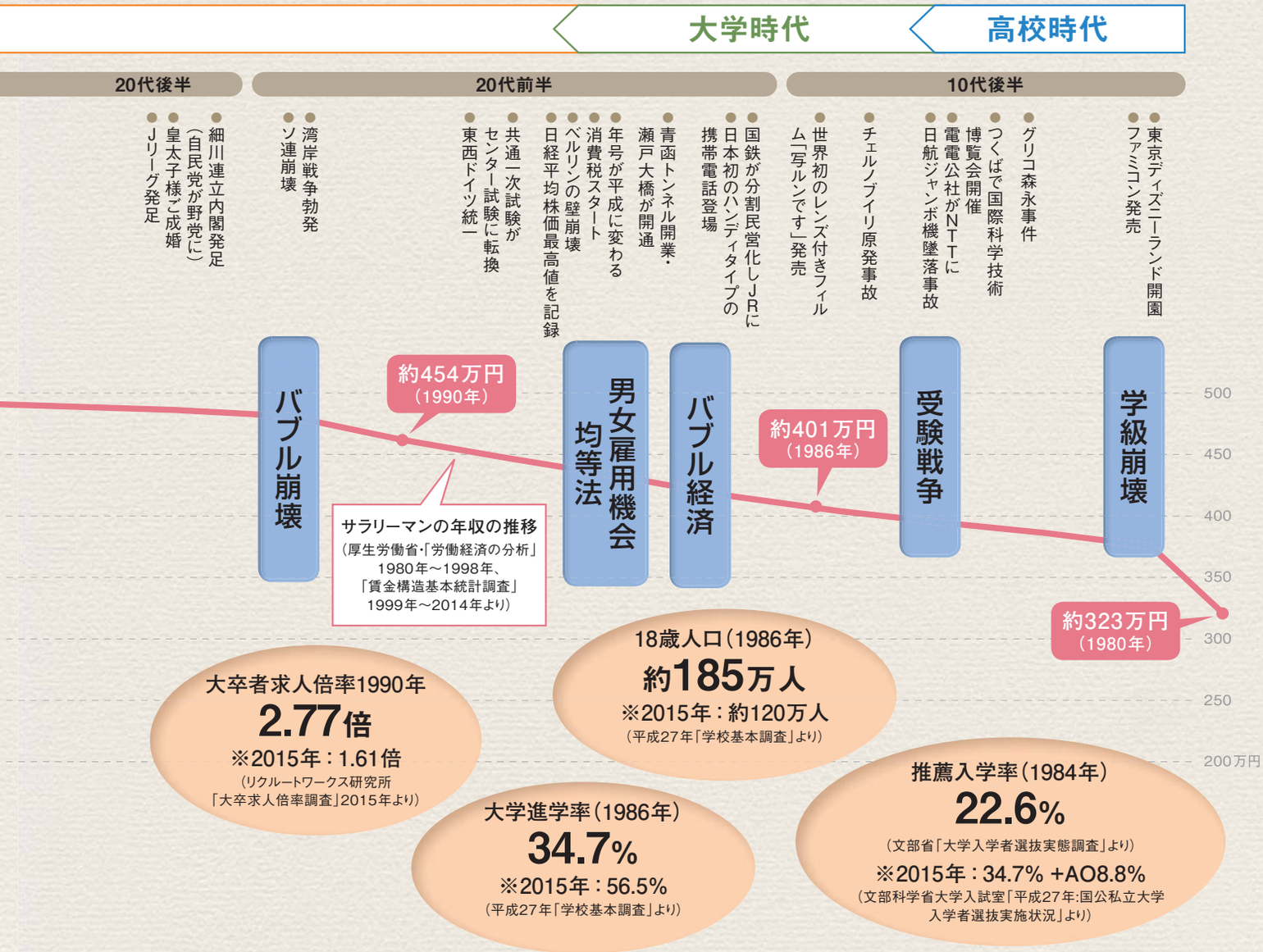
くぐり抜けてきた今の保護者たち



子どもには失敗させたくない」

子どもを心配する思いは激変する時代の経験から

今の保護者はどういう価値観をもった人たちなのだろう？　それを紐解くには、彼らが生きてきた時代を振り返る必要がある。

＊保護者世代が生まれたのは、高度経済成長期の終わり頃。オイルショックによる不況を幼少期に経験したものの、その後は右肩上がりの安定成長時代に育ってきた。保護者世代が高校生だった頃、18歳の人口は現在の約1.5倍。大学進学率は現在のように半数以上の子どもが大学に行く時代ではなく、偏差値で大学を選ぶ傾向にあった。また、保護者世代は大多数が一般入試で受験。受験戦争の中で、常に「競争」を意識していた。

大学に入った頃に、男女雇用機会均等法が施行され、女性の社会進出がようやく本格化され始めた。時を同じくして、日本はバブル経済に突入。保護者世代が就活をしていた時期、大卒者の求人倍率は2.77倍、就職をしたときの初任給は前年比5%アップが続いていた。世に言う「バブル世代」と呼ばれ、恵まれた就職環境によって、若い頃は強い自己肯定感を持っ

＊40代半ば～40代後半と設定

競争と、景気の荒波を

社会人

40代後半
- 北陸新幹線開業
- スマートフォンの契約者数がフィーチャーフォンを超える

40代前半
- 東京スカイツリー開業
- 自民党が政権奪回
- 東日本大震災
- テレビのアナログ放送終了・地デジへ
- 民主党に政権交代
- バブル経済後、日経平均株価最安値を記録
- 初代iPhone発売
- 日本郵政公社が廃止、分社して民営化

30代後半
- 中部新国際空港開港
- JR福知山線脱線事故
- 日本の人口が統計以来初の自然減
- サッカー日韓ワールドカップ開催

30代前半
- アメリカ同時多発テロ事件
- 携帯電話保有率が50%を超える
- ユーロ導入
- NTTドコモがiモードスタート
- 金融機関の破綻、統廃合が進む
- 阪神淡路大震災
- 地下鉄サリン事件
- プレイステーション発売

約481万円（2014年）
約467万円（2010年）
約505万円（2001年）
約516万円（1997年）

リーマンショック
ITバブル崩壊
ITバブル
今の高校生が生まれた時期

大卒者初任給（1990年）
16.9万円（前年比5.6%up）
※2015年：20.4万円
（前年比0.8%up）
（厚生労働省「平成27年:賃金構造基本統計調査」より）

【子どもに対する思い】
競争原理や浮き沈みを経験し、この先は「常勝組」は存在しないと知りつつ、子どもにはせめて「負け組にはなってほしくない」

激動の時代を生き、「自分の

構成・文／長島佳子

ていたのが、今の保護者たちなのだ。

しかし、社会に出てほどなくしてバブル崩壊を経験することになる。その後、30代で経済のグローバル化が進むとともにITバブルが訪れる。ITバブルは長くは続かなかったものの、世界の産業構造は一変した。保護者世代が40代を迎えた頃にリーマンショックにより、日本はさらなる不況の時代を迎える。

保護者の親の世代までは、安定成長の景気とともに「一億総中流社会」と呼ばれ、サラリーマンの年収は右肩上がりが当然だった。しかし、ITバブル崩壊後、年収が下降するという今までにない経験をすることになった。日本が「格差社会」へ突入し「勝ち組・負け組」という言葉がメディアを賑わせた。それはちょうど、今の高校生たちが生まれた時期だ。家庭を築き、これから子どもを育てようというときに、「先が見えない時代」が訪れたのだ。

いくつもの景気の浮き沈みを経験した保護者世代がわが子に願うことは「失敗させたくない」ということだ。こうした価値観を持っている人が多いことを知っておきたい。